

そわにえ Soigner

第6号

『Soigner (ソワニエ)』とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2006年7月15日発行



発行 / 東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /

- | | |
|--------------|--------------------|
| さんぼみち..... | 在宅看護視察旅行... |
| 診療報酬改定説明会... | My Relaxation..... |
| ステーション紹介... | 座談会..... |
| 協議会総会報告..... | 編集後記他..... |



ニュージーランドにて STコスモス・伊波巴子さん撮影

今回の「さんぼみち」はおたんこナスの原作者・小林光恵さんにご協力いただきました。メールで取材の申込をしたところ、快くお引き受け下さいました。

小林光恵さん：1960年生まれ、作家・看護師。
『おたんこナス』(小学館)、『ナスマン』(角川文庫) などナスの視点で書かれた著作でファンが多い。2005年11月には自身のダイエット遍歴を綴った『片づけられない女は太る』(新講社)を出版。



前列が小林光恵さん
後列左から編集協力者・浅尾、広報委員・天木、同・椎名



坂道

小林光恵



夕方、一日の訪問を終えた看護師のクミコさん(38歳)が、所属している訪問看護ステーションに戻るために自転車を漕いでいます。なんとなくペダルが重そうです。

小さな坂のP坂が視界に入るとクミコさんは、自転車から降り、小さなため息をつき、自転車を手で押しながら歩きます。そして、心の中でつぶやきます。

〈今日は、P坂がすごく長くて急な坂に見えてしまう〉

P坂を上りきったところにクミコさんの訪問看護ステーションがあり、行き来のすべてにその坂は使われています。充実感いっぱいステーションに戻る日は、P坂がとても短く、勾配も緩やかな坂に見え、意気消沈するため息が漏れ出してしまうような日は陰しく長い坂に見えてしまうのです。クミコさんは今日一日の訪問先での一場面を順に思い出し、ため息を連発します。

と、前方から、見覚えのある女子高生が友達と肩を並べて歩いてくことにクミコさんは気づきます。そして、その女の子が誰だったのかを思い出します。

〈一年前に自宅で亡くなった〇〇さんのお孫さんだわ。訪問の時間の関係で、ごくたまにしか顔をあわせなかったし、会釈しあう程度だった。難しい年代という印象で彼女の笑顔の記憶はないな。でも、一年ですいぶん大人びた感じ〉

「あっ、こんにちは！」その女の子は立ち止まり、はきはきとした調子でクミコさんにぺこりと頭を下げると、友達に「この方ね、おじいちゃんがお世話になってた訪問看護師さん。この方のお陰でおじいちゃんは、じめじめしてた毎日が徐々に明るくからっとしたのよ。看護ですごいのよ」と説明し、改めてクミコさんに「その節は本当にお世話になりました！ 身体こわさないようにしてこれからもがんばってくださいね。さよなら」と弾む調子で言って過ぎていきました。

とてもケアの受け入れが悪かった彼女のおじいさんに、クミコさんは根気よく、あきらめずに取り組んだところ、薄皮をはがすように少しずつ関係がよくなり、ケアの効果も現れてきたのでした。

クミコさんは、ぷつと吹き出すと、自転車に乗り、ぐんぐんと漕ぎ出します。

〈ほんと、彼女のおじいさんは最初のころ、どんなにからっとした天気でも、本人とその周囲はじめじめとした空気だったのよねえ。最初は挨拶もしてくれなかったのに、一年たったころには、足の親指を指人形みたいに動かして挨拶してくれたのよね〉

クミコさんはこれをきっかけに、これまでのいろんな方の嬉しい手ごたえや感動の出来事をつぎつぎと思い出し、どこからエネルギーがわいてきたのか、P坂を自転車立ち漕ぎで上りきったのです。